

日本470協会 平成22年度第4回理事会

日時 平成22年11月20日(土) 17:00～

場所 新西宮ヨットハーバー

出席者 渡邊 倭、松山、信時、武田、加藤、浅原、大庭、京黒、川田、佐藤(北海道)、
相澤、葛西、三船、川上、五味(順不同、敬称略)

議事録

1. 2010年支援策の振り返り

1) 京黒理事、信時理事長から資料に沿って報告がなされた

- スタープランによる一般の海外遠征支援とU22のジュニアワールド遠征支援以外にJOCから3分の1の補助金が出ていることについて、470協会としての補助金のあり方として検討する必要があるのではという意見があったが、現状案を継続することとなった。

2) 審議及び決定事項

- 全日本選手権へ学生の出場が少ない件について審議
インカレで年度の活動が終わってしまうことが問題。最初から、インカレの次に全日本というプランにしてもらわないといけない。(大庭・倭)
単位の取得の問題があるので、大学の休み中にしていけないと難しいのではないか。(三船)
学生がインカレを最終目標にしていることは変えようがない。極端な話ではあるが、インカレ前に全日本をやることも考えたほうがいいのか。この時期は昨今風が吹かないし、社会人も忙しい時期。日が長くシーブリーズがしっかり吹く夏に実施する案もあるのでは。(信時)
水域選考会など他のレーススケジュールと調整し、今後検討をすすめる。ただし、来年度は現状通り11月20日近辺で開催とする。

2. 2012年度全日本470の開催地について

1) 信時理事長より資料の説明がなされた。

他の水域からの候補を募ったが、無しであった。

2) 決定事項

- 11月20日近辺の時期に高松で開催することとする。

3. 計測の今後の方向性について

1) 浅原理事より資料に沿って説明。

2) 審議及び決定事項

新艇計測の方向性

- 提案内容の通り変更。

ヤマハ発動機(株)製の艇については現状の遅延要因の一つである郵送でのやりとりを一部 E メールに変更し、納艇時にオーナー宛に交付することとする。

輸入艇については、計測登録証明書の作成を廃止(後述)。

- 時期は4月以降とする。

計測登録証明書

- 提案内容の通り変更

計測証明書を廃止し、MC/MFに一本化する。

MFにオーナー名が入っていないと無効となるため、MFにオーナーを記載すること。選手(オーナー)の負担も減る。

再発行・名義変更等、事務処理

- 現状の欠落書類を確認の上、データベース化して保存することとする。
- 変更手続きが考えられない艇番の紙の資料は処分する。

計測関連費用受け取り口座について

- 計測費用の口座を分け、法人でインターネットバンキング契約(基本利用料が2100円/月)する方向で検討する。(浅原・武田)

その他

- 計測資料の保管について

整理した上で、データベース化する。印刷用にレーザープリンターを購入する。浅原理事の負担がかからない方向で処理を進めること。

未確認の資料については、恒川理事に確認をとる。

- オクムラのライセンス取得希望

ヤマハとオクムラで調整してもらおう。こちらからの働きかけはできない。

- 選手から質問の多い「計測関連の手続き方法」を協会HPにUPする予定。

4. 470協会規約の改正案について

1) 信時理事長より説明(戸張理事欠席のため)

2) 審議:

- 細則: 3. セール番号

セール番号を与えられる艇に『活動中の』をいれてほしい。(浅原)

- 第2章 役員 第8条（役員）
理事の定数が少ない（現状で18名なので増やせない）ので25名に変更する（信時）
- 細則：1 各水域470協会の構成
新潟県が重複しているので修正（佐藤）
- 第3章 第14条（理事会の開催）
理事会の開催についての縛りを（年に1回以上など）かけたほうがよいのでは（佐藤）

3) 決定事項

- 審議案を踏まえ検討し、改訂案をメールにて確認する。

5. その他

1) 若手理事の獲得について（信時）

各水域のマンパワーを強化していくため、また470協会理事の層を厚くするためには、若手理事をどう増やしていくかが重要。

各水域理事より現状報告

- 相澤（東北）：社会人になってやってくれる人がいないが来年に向けて個別にアタックする予定。
- 葛西（四国）：社会人になってすぐには新艇を買うことができないので、県連で購入した艇を中古で売却することにより、社会人セーラーを援助している。
- 佐藤（北海道）：学生が卒業後、全国に就職してしまい、北海道にいない。学生のレース以外は水域選手権しかないので少しさびしい感じ。
- 浅原（近北）：卒業後、運営には来るが選手を続ける人が少ない。卒業後できない原因は、艇がないことなので県連の艇を貸している。運営に来た人をジャッジの資格をとらせてネットワークを作っている。
- 三船（九州）：学生主体であるが、まずは、学生を活性化することが次に繋がると考え活動している。その結果8割が卒業後も続けている。半分はクルーザー。学生のうちからクルーザーに乗せている。
470を増やして生きたいが、個人でやっていける経済状況ではない。学生のうちから艇を買うようにしている。半分は個人で負担し県連で援助する。学生のうちは使ってよく、そのまま続けるなら使ってよいことにしている。
- 京黒（関東）：学生はたくさんいるが、続けていない。中古艇の手配など、考えていきたい。
- 川上（関西）：学生中心だが、甲南大学がOB会で艇を買って乗り始めた。

実業団は川崎重工が増えた。これは実業団の470が減ったため、各水域で働きかけたためである。

社会人になってやりたいときに、すぐできる状況にない。また、470を団体（学連以外で）もつことは大変。

- まとめ：学生卒業してから活動継続してもらうことが鍵で、そのためには現在の経済環境からすると艇を用意することが有効なことが分かった。470協会として手がけられる範囲を超えているが、中古艇の情報流通などは有効かもしれない。実業団の再活性化も含めて各水域で今後も検討していきたい。

2) 今回の全日本470選手権についての報告（川上）

3) 渡邊会長より

- JSAFへの理事について
現在倭副会長がJSAFの理事であるが、任期が来年の3月までとなっている。倭さんはJSAFの要職についていただきたいので470協会から推薦する。
- MYナンバー現状確認と必ず完結させることの示達
- 褒章への推薦について

4) 倭副会長より

- 1月22日 JSAF新年会@帝国ホテル アジア大会の優勝祝賀会もかねて行われるので参加してほしい。

以上